

タイトル	北海学園大学人文学会第6回大会シンポジウム 記録 人文学（文化研究）と実学（観光研究）と実践（観光振興）をつなぐ：世界遺産は我々に何を語りかけ、それをどのように受けとめ、伝えていけばいいのか
著者	
引用	北海学園大学人文論集(67)：1-1
発行日	2019-08-31

人文学(文化研究)と実学(観光研究)と 実践(観光振興)をつなぐ

— 世界遺産は我々に何を語りかけ、それをどのように
受けとめ、伝えていけばいいのか —

● 概要

【総 論】 世界遺産と観光について人文学研究者は何を考
えるべきなのか？

大森 一輝（北海学園大学人文学部教授）

【各論 1】 カナダ・アルバータ州先住民遺跡観光の現状

大森 一輝（北海学園大学人文学部教授）

【各論 2】 「プランタン=モレトゥスの家屋・工房・博物館複
合体」は、いかにして世界遺産になったのか？

柴田 崇（北海学園大学人文学部教授）

【各論 3-1】 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」
は、どのように「活用」されるべきなのか？

仲丸 英起（北海学園大学人文学部准教授）

【各論 3-2】 世界遺産登録に伴うストーリーの創出とその問
題点 — “長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連
遺産”の事例から

鈴木 英之（北海学園大学人文学部准教授）

【コメント 1】 手塚 薫（北海学園大学人文学部教授）

【コメント 2】 大谷 通順（北海学園大学人文学部教授）

【コメント 3】 小松かおり（北海学園大学人文学部教授）

日時 2018年12月8日（土曜日） 13:00～16:30

会場 北海学園大学6号館 C31 番教室

主催 北海学園大学人文学会・北海学園大学人文学部・北海学
園大学大学院文学研究科